

2023年11月期
第2四半期
決算補足説明資料



ティアンドエス株式会社
(東証グロース 4055)

2023.7.14

T & S
Technology & Service

2023年11月期 第2四半期

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
四半期別売上高・営業利益	p. 9
主要取引先動向	p. 10
エンジニアの状況	p. 11
損益計算書	p. 12
貸借対照表	p. 13
トピックス	p. 14
業績予想進捗率	p. 16
株主還元	p. 18

(今期のテーマ)

成長の継続

1 過去最高収益を継続(過去同四半期比)

売上高	: 17億 8百万円	(8.9%増↑	増加額: 140百万円)	(前年同四半期比)
営業利益	: 3億 16百万円	(10.5%増↑	増加額: 29百万円)	(同)
経常利益	: 3億 21百万円	(9.3%増↑	増加額: 27百万円)	(同)
四半期純利益	: 2億 25百万円	(9.5%増↑	増加額: 19百万円)	(同)

2 半導体カテゴリーが好調を持続。ソリューションカテゴリーも堅調

- 半導体カテゴリーの売上高は前年同四半期比**21.5%増**。半導体市況低迷の影響は小さく、好調な推移となった。
- ソリューションカテゴリーの売上高は前年同四半期比**9.8%増**。主要取引先からの受託開発案件の受注は引き続き堅調に推移。主要取引先以外のその他の取引先からの受注も伸長。
- 先進技術ソリューションカテゴリーの売上高が前年同四半期比**26.3%減**。前期に売上計上された大型案件の反動により売上高が減少しているが、前期から継続している外観検査システム開発が順調に推移し、前年同四半期比の減少幅は1Qに比較して改善。

3 業績連動賞与を引当計上

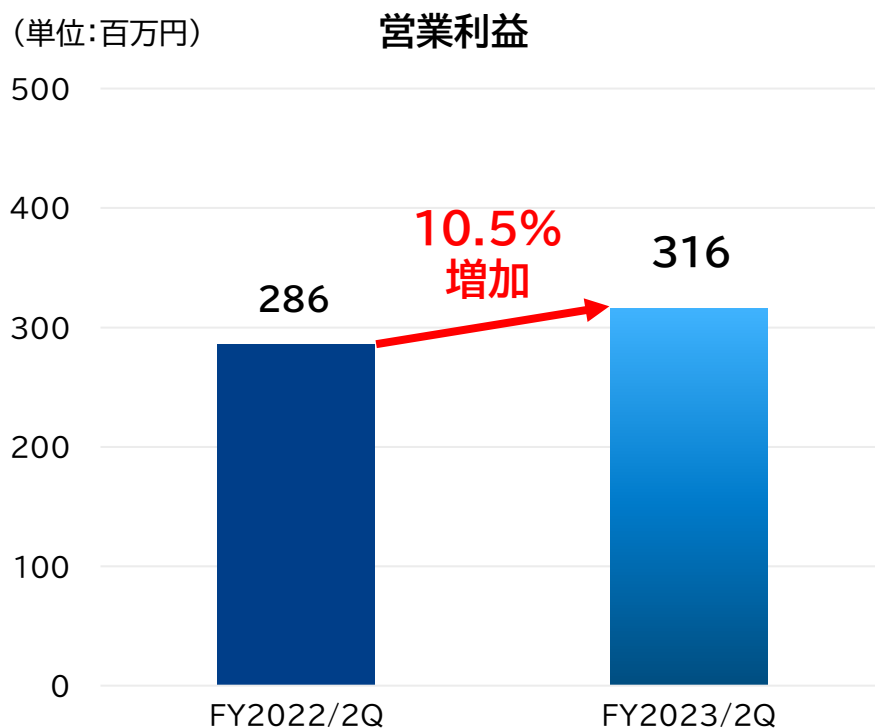
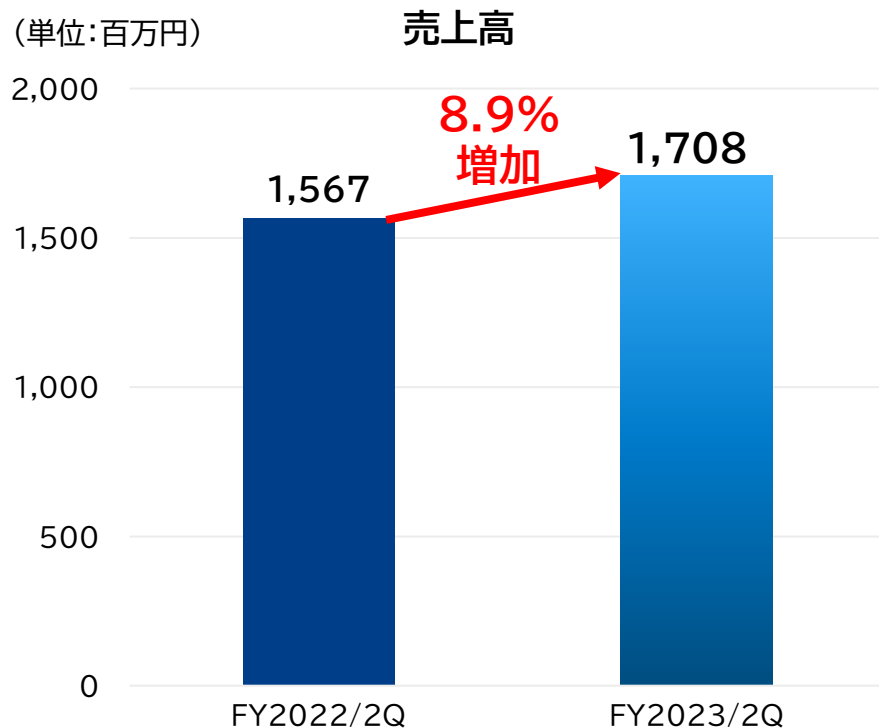
- 通期予想に対する2Qまでの進捗率は46.2%となり、例年通りの季節変動を加味した推移となった。
- 営業利益の一部を従業員に還元する施策を当期も継続。上期業績連動賞与20百万円を引当計上するも、営業利益率**18.5%**を達成。(前年同四半期比0.2ポイント増)

決算概要

2023年11月期 第2四半期

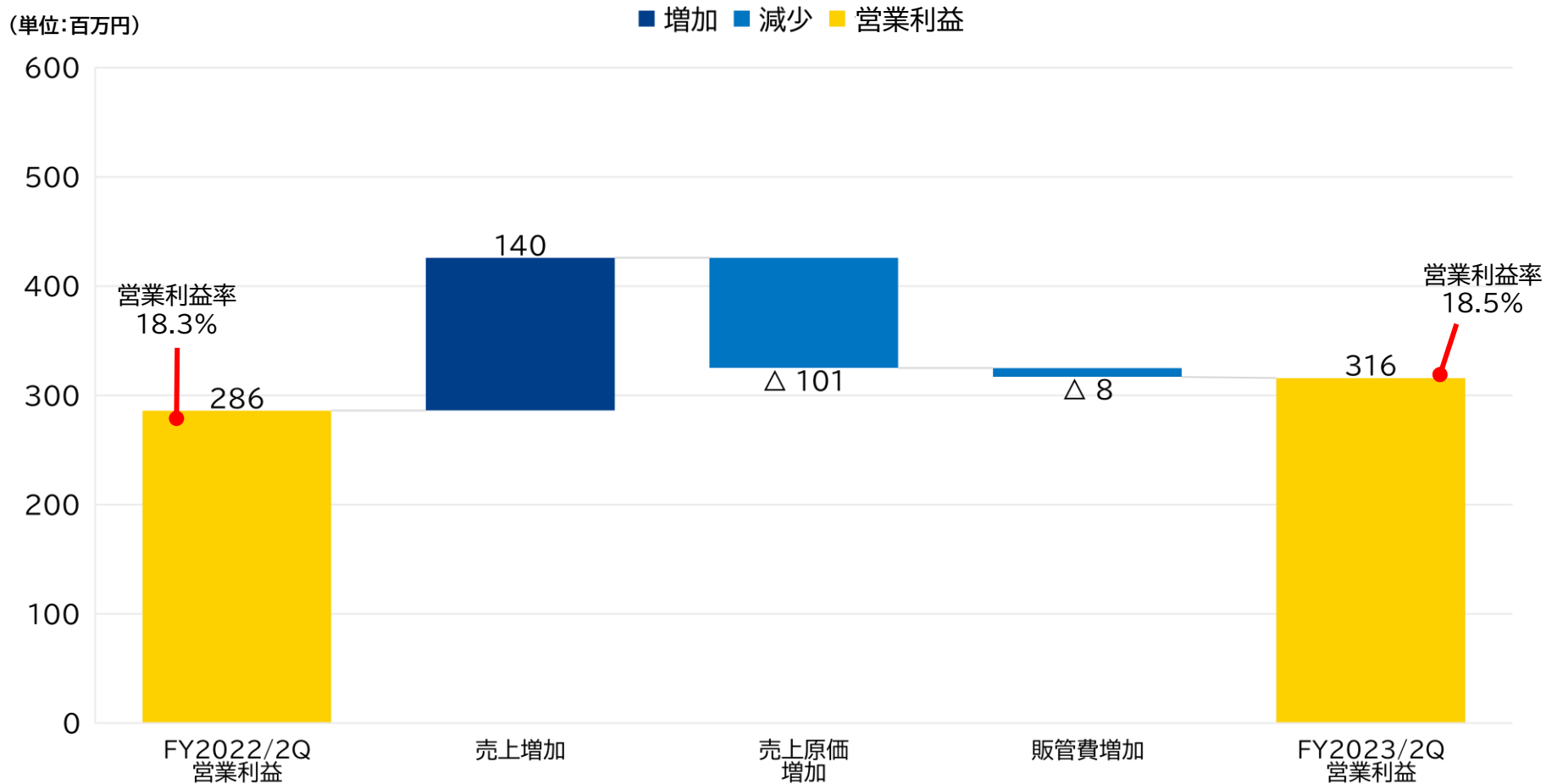
過去最高収益を継続 (過去同四半期比)

売上高	: 17億 8百万円	(8.9%増↑	増加額: 140百万円	(前年同四半期比)
営業利益	: 3億 16百万円	(10.5%増↑	増加額: 29百万円	(同)
経常利益	: 3億 21百万円	(9.3%増↑	増加額: 27百万円	(同)
四半期純利益	: 2億 25百万円	(9.5%増↑	増加額: 19百万円	(同)



営業利益の状況(FY2023/2Q)

29百万円の営業利益増 (前年同四半期比)



カテゴリー別売上高(FY2023/2Q)

ソリューションは**9.8%増加**で堅調に推移

(前年同四半期比)

半導体は**21.5%増加**で好調を継続

(前年同四半期比)

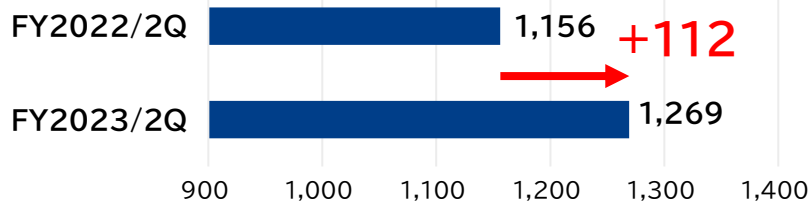
先進技術ソリューションは前期の大型案件の反動で**26.3%減少**

(前年同四半期比)

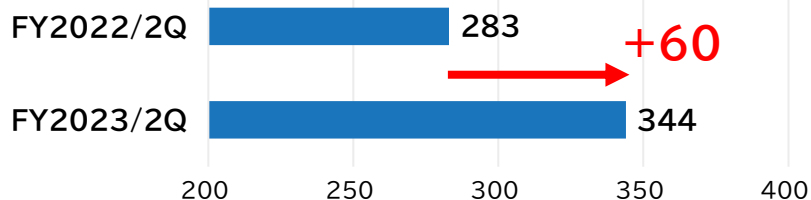
売上高(カテゴリー別)

(単位:百万円)

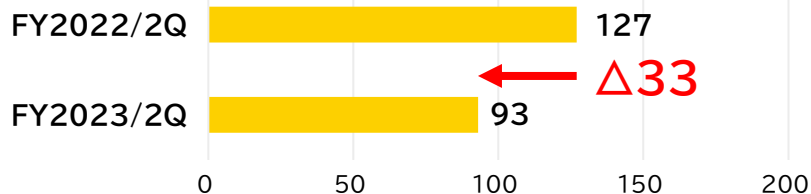
ソリューション



半導体



先進技術ソリューション



売上比率(カテゴリー別)

先進技術ソリューション

93百万円 5.5%

半導体

344百万円 20.2%

FY2023/2Q

1,708百万円

ソリューション

1,269百万円 74.3%

(注) 当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。

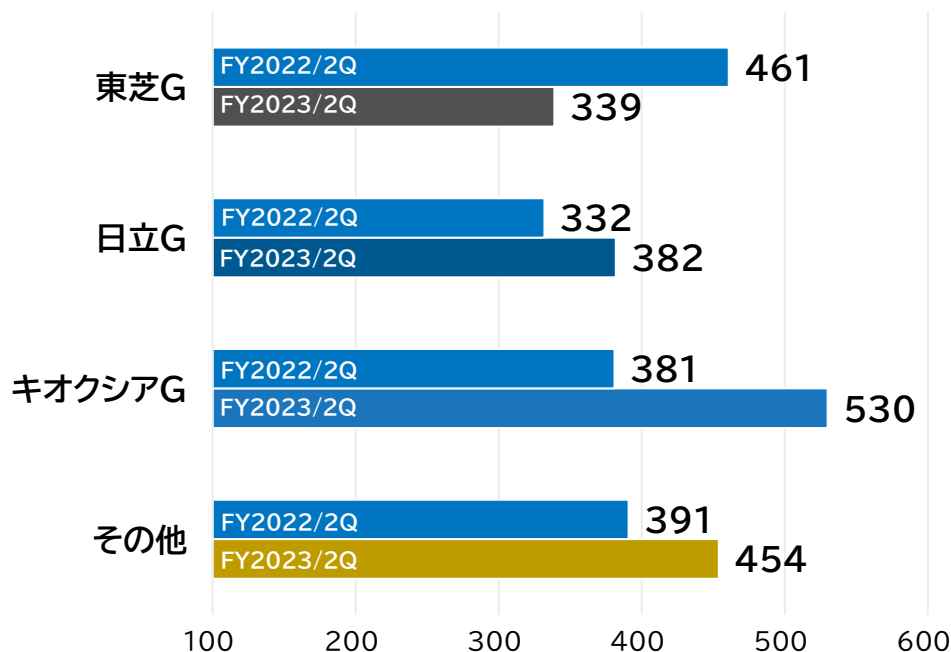
取引先別売上高(FY2023/2Q)

東芝G、日立G、キオクシアG

主要取引先は安定して推移

日立G と **その他** 取引先が伸長
(15.0%増加) (16.0%増加)
(前年同四半期比) (前年同四半期比)

売上高(取引先別) (単位:百万円)



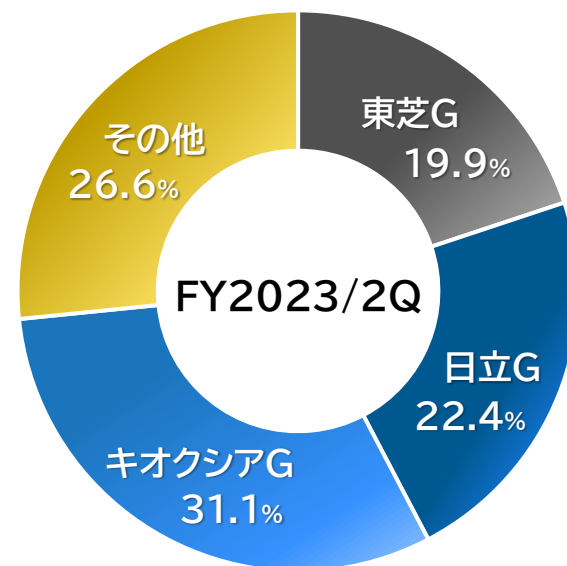
売上比率(取引先別)

26.4%
減少

15.0%
増加

39.1%
増加

16.0%
増加



(※)東芝Gの再編に伴い、従来東芝Gとして集計していた旧中部東芝エンジニアリング(株)(現キオクシアエンジニアリング(株))に対する売上高を前期3QよりキオクシアGとして集計しています。これを考慮すると、東芝Gに対する売上高は実質0.3%の増加になります。

四半期別売上高・営業利益(FY2023/2Q)

2Q累計売上高：17億8百万円

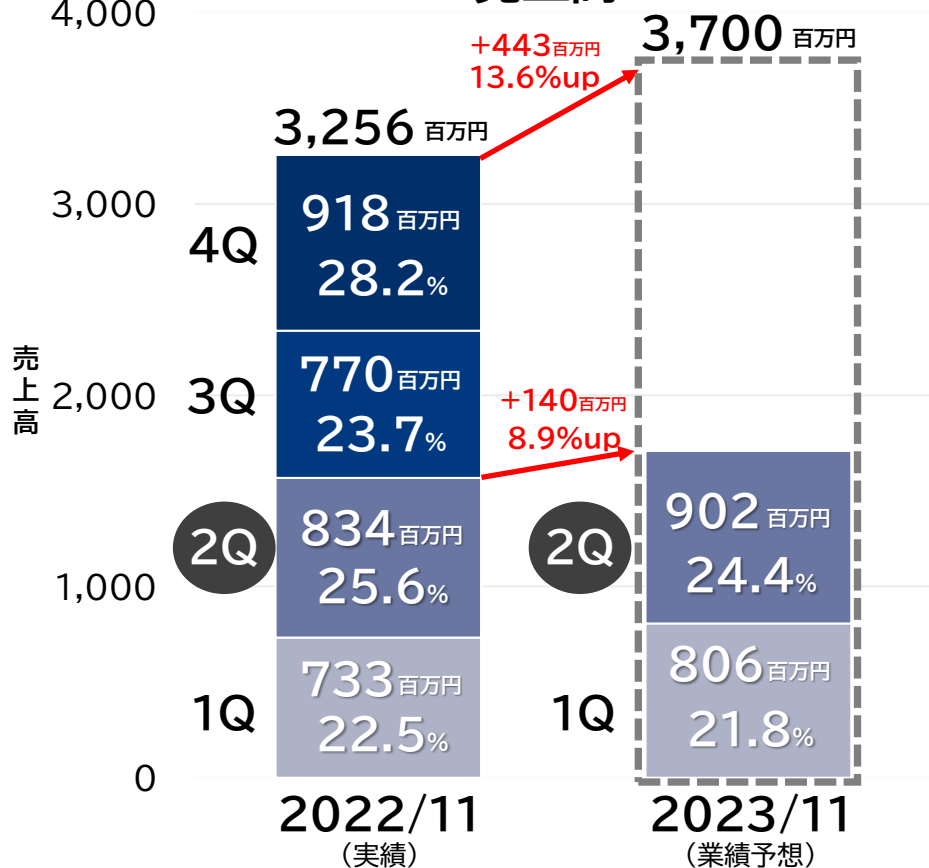
増加額：+140百万円 8.9%増加 (前年同四半期比)

2Q累計営業利益：3億16百万円

増加額：+29百万円 10.5%増加 (前年同四半期比)

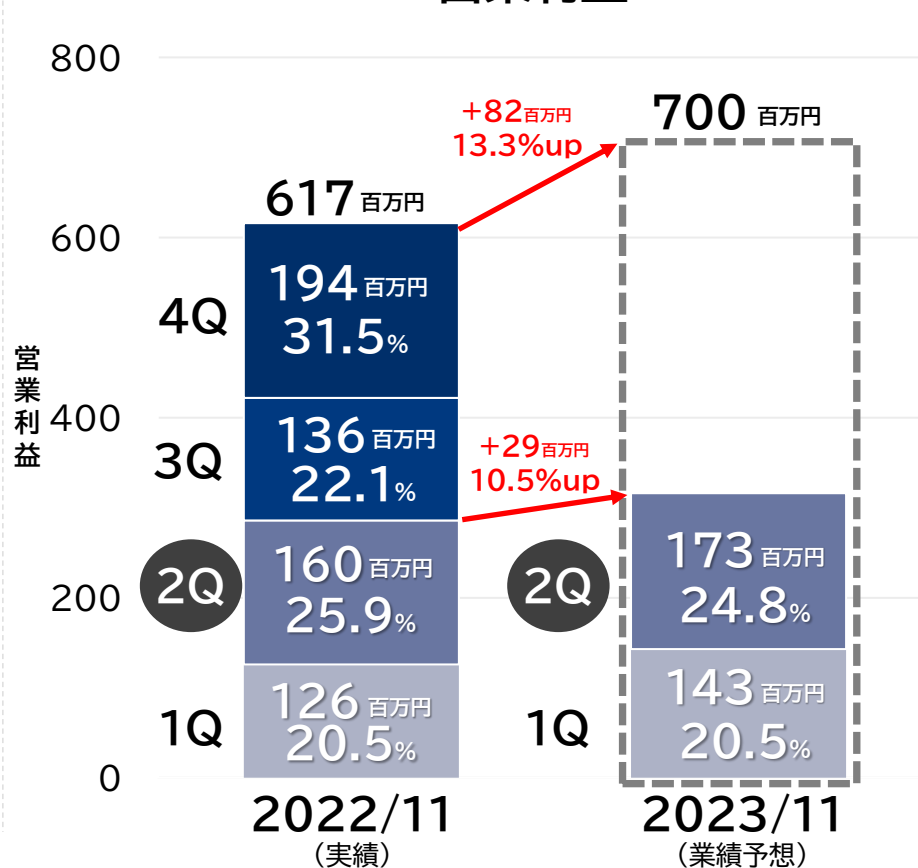
(単位:百万円)

売上高



(単位:百万円)

営業利益



※当社の業績には、エンジニアの増員状況や案件の納期の関係で若干の季節変動が見られます。

(全体)主要取引先動向

(2023年7月14日現在)

当社を取り巻く重電、インフラ関連の事業環境は引き続き順調。半導体市況が低迷するなかでも中長期的な需要増を見込み、半導体メーカ各社の投資意欲は旺盛。一方、世界的なインフレ、ロシアのウクライナ侵攻の長期化など地政学的リスクへの対応は依然として課題となっています。

東芝G

非上場化へ向けた変革の動きは着実に進展。当社がシステム開発を手掛ける発電所関連のエネルギーシステムソリューションセグメントに関しては設備投資が拡大する見通しであり当社にとっては追い風とみています。

日立G

デジタルシステム&サービス、クリーンエネルギー&モビリティを中心に受注が堅調。グループ再編が一巡するなか、デジタルトランスフォーメーション(DX)支援事業に経営資源を集中し、デジタル分野を軸とした成長を目指す戦略に移行しており、当社への引き合いも引き続き増加が期待されます。

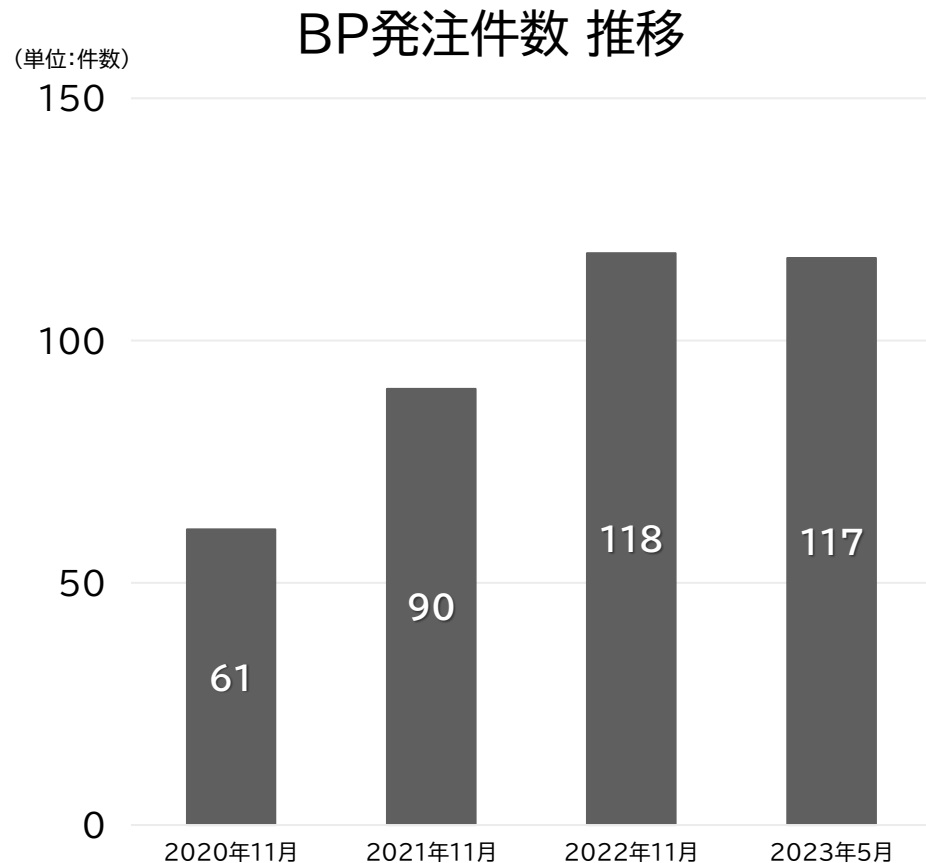
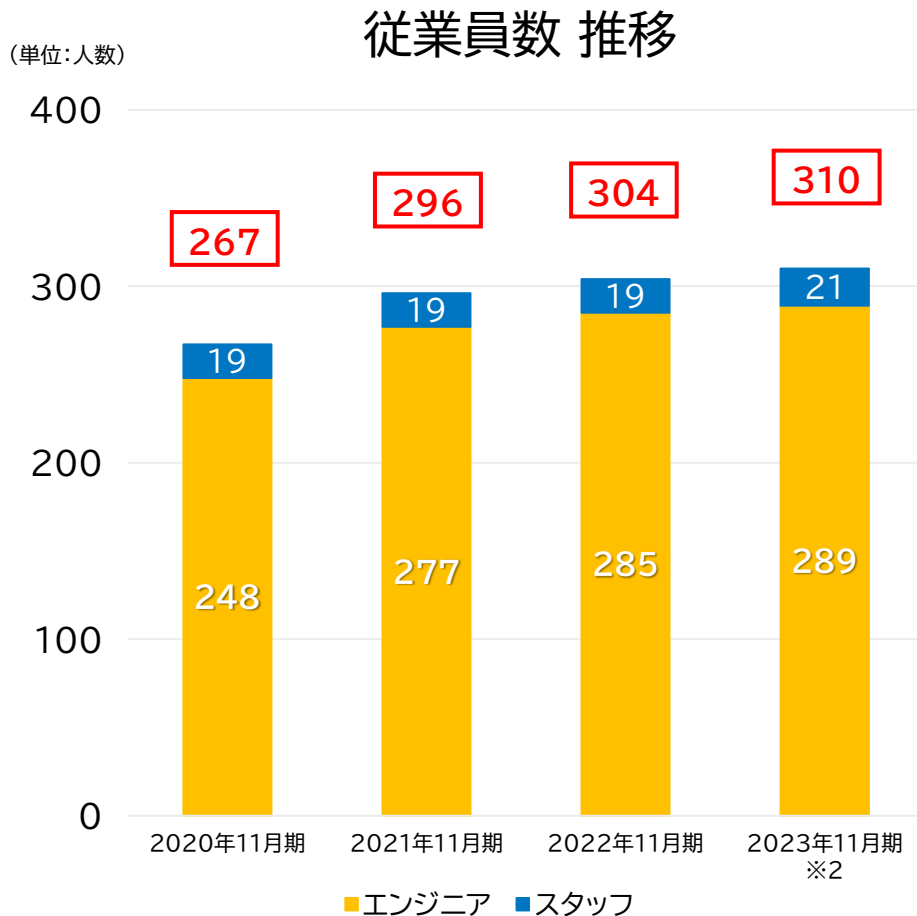
キオクシアG

半導体需要の低迷による減産体制を当面は継続する方針。当社の関与する工場システムの保守運用は操業度との関連は薄いですが、コスト協力等による影響は生じる見込み。短期的な厳しい状況に対し、中長期的には成長トレンドの市場との見方に大きな変化はなく設備投資意欲は旺盛で、当社にとってはシステム開発の受注拡大が期待されます。

その他

半導体産業の強化に向けた国家戦略に加え、全産業領域において設備投資額は拡大傾向。とりわけ、デジタル化や人手不足を受けた省力化を目的とした設備投資の流れが加速しており、当社への引き合いも拡大しています。

BP^(※1)戦力を維持しエンジニアリソースを確保



※1 BP…ビジネスパートナー。業務委託等の形態で当社業務に従事するエンジニア

※2 7/14時点

損益計算書(FY2023/2Q)

損益計算書(FY2023/2Q)

単位:千円	FY2022/2Q	FY2023/2Q	増減額	増減率
売上高	1,567,800	1,708,065	140,264	8.9%
売上原価	1,080,574	1,182,041※	101,467	9.4%
売上総利益	487,226	526,023	38,797	8.0%
販売費及び一般管理費	200,544	209,348※	8,803	4.4%
営業利益	286,681	316,674	29,993	10.5%
(営業利益率)	(18.3%)	(18.5%)		
経常利益	294,155	321,494	27,339	9.3%
(経常利益率)	(18.8%)	(18.8%)		
四半期純利益	205,717	225,181	19,463	9.5%
(四半期純利益率)	(13.1%)	(13.2%)		

※好業績による従業員への業績連動賞与20,000千円を含んでおります。

貸借対照表(FY2023/2Q)

単位:千円	FY2022	FY2023/2Q	増減
流動資産	2,110,767	2,204,244	93,476
固定資産	170,732	158,980	△11,752
資産合計	2,281,500	2,363,224	81,724
流動負債	498,233	394,350	△103,882
固定負債	49,763	54,412	4,649
負債合計	547,996	448,762	△99,233
株主資本合計	1,733,503	1,914,461	180,958
純資産合計	1,733,503	1,914,461	180,958
負債純資産合計	2,281,500	2,363,224	81,724

トピックス

当社提案の**画像認識AIアルゴリズム**が 国内大手精密機器メーカーの外観検査装置に採用

当社の先進技術ソリューションカテゴリーが独自に提案した画像認識AIアルゴリズムが、当社の顧客である国内大手精密機器メーカーが製造販売する外観検査装置に採用されることが決まりました。

高精度な部品位置決定

当社は、顧客に対して最新の画像認識AIアルゴリズムを提案し、改良評価を行い、その技術的有効性を示してまいりましたが、その結果、従来の手法よりも高精度な部品位置決定を実現しました。

今後の展開

AI技術の提供を開始して以来、多数の論文調査、実装、評価を行い、最新のAI技術情報をデータベース化して蓄積してきました。今後も、独自のAI技術データベースと高度なソフトウェア技術を活用し、お客様に最新技術の提案、研究開発支援、製品開発支援を進めてまいります。

(2023年4月18日公表)

業績予想進捗率

2023年11月期2Q現在

通期予想に対し**堅実に推移**

(通期業績予想の変更なし)

単位:百万円	2022年11月期 (実績)	2023年11月期 (予想)	2023年11月期 第2四半期(実績)	進捗率
売上高	3,256	3,700	1,708	46.2%
営業利益	617	700	316	45.2%
経常利益	626	703	321	45.7%
当期(四半期)純利益	440	495	225	45.5%

全社

売上高は前年同四半期比8.9%増。主要取引先からの受注は安定して推移し、加えてその他取引先からの受注が伸長した。2Q累計売上高は通期予想に対して46.2%の進捗となり、エンジニアの増員状況や顧客の納期の関係で例年みられる季節変動の状況通りの推移となった。技術者リソースを補うため、前期末より継続してBP利用を増加させているが、好採算案件へのシフトも奏功し、粗利率は30.8%を確保。業績連動賞与の引当20百万円を吸収し、営業利益は316百万円と前年同期比10.5%増。営業利益率は18.5%。

ソリューション

前年同期比9.8%増。主要取引先からの大型システム開発案件の受注に加え、その他の取引先からの請負開発案件の受注が伸長。

半導体

前年同期比21.5%増。工場システムの保守運用は工場の操業度との関連は薄く、コスト協力等の影響があったものの増収を確保し好調を持続。

先進技術
ソリューション

前年同期比26.3%減。前期首にあった仕掛中の大型案件が前年同期に売上計上された反動で、1Qに続き当四半期の売上高は減少しているが、外観検査システム開発が順調に推移したこともあり、1Qに比較し減少幅は縮小。

株主還元

2023年11月期の配当性向も10%を目標とします

配当の基本方針

当社は、**将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させる**ことを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2023年11月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向 10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり6円55銭(55銭増配)を予想しております。

以上の施策を加味した財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	配当性向	自己資本利益率 (ROE)
2022年11月期 (実績)	6円00銭	10.3%	27.3%
2023年11月期 (予想)	6円55銭	10.0%	25.3%

お問い合わせ先

ティアンドエス株式会社

経営企画IR部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。